

早雲だより

2025.6.25

第167号

歴史グループ早雲

第一八四回 歴史ハイキング 報告

栗田口・蹴上界隈散策

京津線栗田口廃線跡・旧?東海道・南禅寺水路閣

2025年3月23日(日)

はじめに

例会はハイキング日和の好天に恵まれた日になりました。桜の開花には少し早かったようですが、そのためか行楽客も少なく散策には良かったと思います。

京都市営地下鉄蹴上駅に集合しました。本日は歴史グループスタッフの入江さんと村田さんに企画をお願いしました。村田さんの旧東海道にまつわるクイズの後栗田口・蹴上界隈をめぐる散策に出発しました。参加者は19名です。

(コース)

蹴上駅→蹴上交差点(蹴上発電所)→(栗田口線廃線跡)→東山三条→古川商店街→旧?東海道→栗田口→栗田神社→蹴上交差点→インクライン→疏水記念館→南禅寺水路閣→疎水分線→蹴上疏水公園→日向大神宮参道→蹴上駅

ハイキングの概要

今回のハイキングでは琵琶湖疎水の役割がクローズアップされたように思います。入江さんの詳細な説明で蹴上界隈の今に残る風景は琵琶湖疎水に関係していることを痛感しました。

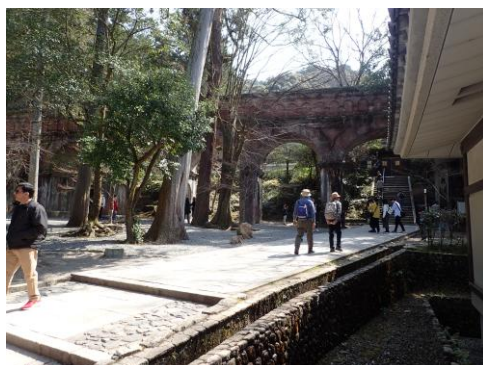
琵琶湖疎水

現在でも琵琶湖疎水は、水道用水、発電用水、かんがい用水、工業用水を供給するなど様々な都市活動を支える基盤施設です。

琵琶湖疎水には第一疎水、第二疎水、疎水分線があります。第一疎水と第二疎水は大阪市三保ヶ崎の集水点からほぼ並行して流れこの蹴上で合流しています。この蹴上は琵琶湖疎水の要となる場所で、様々な機能が集約されています。



(写真) インクライン

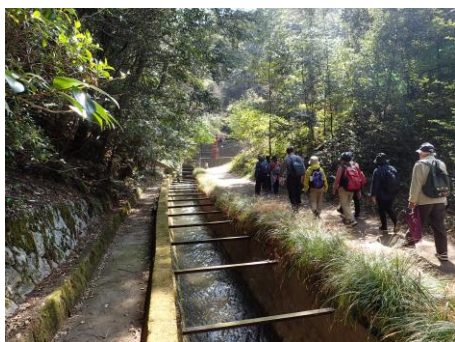


(写真) 水路閣

蹴上には1912年(明治45年)に設置された蹴上浄水場日本初の商業用である蹴上発電所があります。そのほかに舟運用のインクラインも設置されています。また、蹴上からは南禅寺水路閣から哲学の道へ流れていく疎水分線が分岐しています。

琵琶湖疎水は多目的に利用されてきたが、その目的はその主目的は何度も変遷を重ねています。当初は水力利用だったが、水力発電による電力利用に変わった。電力は京都発展の一大原動力となり、1893年(明治28年)には日本初の路面電車

が京都・伏見駅間に開通した。



(写真) 琵琶湖疎水分線

蹴上発電所は第三期建設のものが現在も発電を続けています。

本日、散策する京津線もこの発電所の電力を使ったことは間違いないでしょう。

疎水について語ると紙面が足りないので最後に疎水感謝金について。

「琵琶湖を主な水源として水道水に利用し、滋賀県に毎年感謝金を払っている京都市は2025年4月2日、今年度から10年間の感謝金を年2億3000万円とする契約を

同県と結んだ。締結式で、松井幸治市長は「疎水は長い間京都のまちと文化を支えてきた。」と語った。

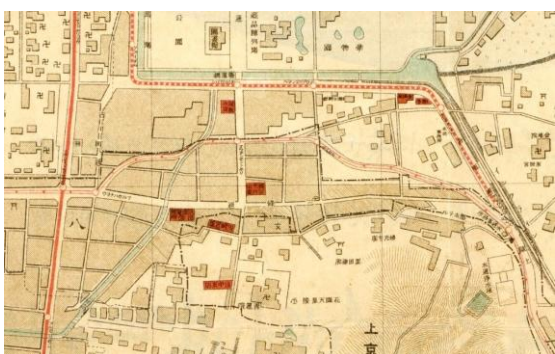
京津線廃線跡

京都と大津は古くから人の往来が盛んで、京都駅から六地蔵を経由する遠回りの東海道線とは別に、両市の中心部を直結する鉄道が望まれていた。1912年(大正元年)、

京都・三条大橋と大津・札ノ辻間を結ぶ鉄道「京津電気軌道」が開業。この路線は三条大橋から山科のほとんどの区間で三条通の上を走っていたが、東山三条の古川町駅(現・東山駅)から蹴上駅の区間は、当時幅が狭かった三条通を避け、北側の住宅街を弧を描くように迂回した。京津電気軌道は1923年に京阪電気鉄と合併し、京阪京津線となる。1931年、三条通の拡張にあわせて、古川町・蹴上間は道路上に新線が建設され住



(写真) 疎水記念館ソオラマ
京津線が再現されています



(写真)『京都市街全図』部分
図 大正2年(1913) 大阪毎日新聞社発行

宅街を走る旧線は廃止された。この迂回路線は19年と短命だったが痕跡は今も残っている。例えば三条通北側の住宅街を歩くと、東西の通りに対して垂直に並ぶ町家の中に、ななめの建物が突然現れるが、これはかつての線路敷を転用したもの。一帯は古い町家や区画が残り、道の曲がり具合や建物の古さに注目すると線路の跡を辿ることもできる。

今日の旧京津線跡廻りは、旧蹴上駅跡を出発し、東山三条の少し東、旧古川町駅跡までの探索です。左の写真は蹴上発電所の発電で京都はいち早く電車を走らすことができた。



(写真) 蹴上発電所



(写真) 廃線跡・蹴上



(写真) 廃線跡



(写真) 廃線跡

一口感想

H・M

今回も井上代表をはじめ

役員の皆様のお世話で歴史ハイキングを楽しませていただきました。詳しい説明のもと“京津線栗田口廃線跡”を巡りましたが、なかなか経験の出来ない京都の裏道をたどり興味深かったです。また旅立ちの神を祀る「栗田神社」を初めて訪れることが出来認識を新たにいたしました。

◆◆◆◆

Y・M

今回の史跡散策では、東海道、栗田神社などの説明をクイズ形式でさせていただいた。その話の中で皆様より、今はこういう見解が出てきているという話をいただき私自身も非常に勉強になった。今後また私が説明を担当することもあると思うので、いろいろなことを教えていただければうれしい。今から次回の散策が楽しみだ。

◆◆◆◆

M・M

役員の皆様、参加の皆様、ありがとうございます。快晴に恵まれ、季節良し、花良し、参加者良し、そして講師良しの素晴らしい一日でございました。身近な街でありながら、私には知ってるようで知らなかったことが一杯！

明治初期に蹴上疏水を作り上げた先人の先見の明に感心！

案内してくださった方々の詳しいお話と丁寧な資料の準備にひたすら感謝でございます。

ただ、もう足腰ボロボロの私、帰宅して、風呂で疲れを癒したら、大河ドラマの途中でいつの間にか撃沈してありました。

そな訳で返信遅くなり申し訳ありません。

次回も宜しく願いたします。

【編集後記】

今回のハイキングは歴史グループスタッフの入江さんと村田さんに企画をお任せしました。各場所での詳細な解説並びにクイズなど交えての散策はいつもと一味違った例会になったと思います。また良く訪れる京都市内の街角の魅力を再発見できました。

入江さん・村田さんありがとうございました。

解説していただいた内容など早雲たよりに盛り込めず申し訳ありません。お許しください。

◆◆◆◆

祝・国宝指定

琵琶湖疏水の一部施設が、近代土木構造物として初めて国宝に指定されることになりました。具体的には、南禅寺水路閣、第一隧道、第二隧道、第三隧道、インクラインの5つの施設が国宝に指定されます。



(写真) 廃線跡・白川

旧?東海道

東山三条からは旧?東海道をたどった。三条通の横断歩道を渡り古川町商店街を一筋南で東に向かう。近世の東海道は三条大橋から三条通を東へ向かうがそれ以前の東海道は栗田口付近では栗田神社に参詣するため南に迂回していたようです。栗田神社は京の七口の一つである栗田口に鎮座し、古くから旅立ち守護の神として崇敬を集め、まし



(写真) 栗田神社



(写真) 栗田口付近

た。今回はもしかしたら旧?東海道を古川商店街から栗田神社まで辿りました。